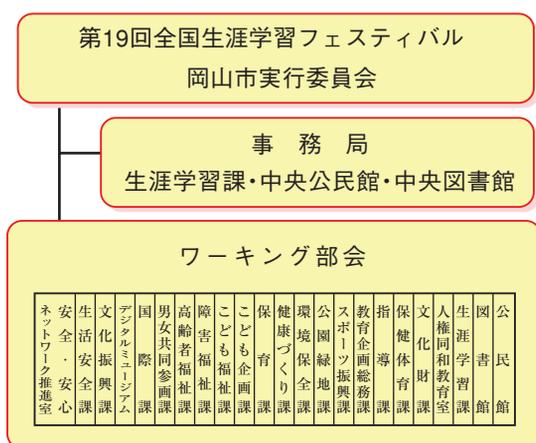


岡山市

1 推進体制

岡山市では、全国生涯学習フェスティバルを開催するにあたり、平成18年7月19日に、岡山市教育委員会教育長を会長とする第19回全国生涯学習フェスティバル岡山市実行委員会（委員28名）を設置し、事務局は岡山市教育委員会生涯学習課内に置き、準備を進めてきました。推進体制は以下のとおりです。



2 基本方針

岡山市では、「まなびピア岡山2007」岡山市主催事業（「まなびピア岡山2007inおかやまシティ」）の開催にあたり、生涯学習理念の一層の浸透を図るとともに、学習機関のさらなる充実を図り、地域に学習を広げ、多くの人々の生涯学習に関する興味、関心、意欲を高めることを目的として、さらに、岡山市内の社会教育関係団体をはじめ、生涯学習に関わる個人・地域・団体・企業等にとって、『子どもを中心とした新しい地域づくり（次代を担う子どもたちにとってどんな社会、どんなまちを手渡すのか。）』における、それぞれの役割や活動を発見・獲得する機会とし、様々な社会教育活動の活性化を図ることをねらいとして開催することとしました。

また、特色ある岡山市の歴史や文化・芸能、伝統産業などの文化的取り組みや、子どもから高齢者まで幅広い世代の「交流」と「まなび」を体験する場を県内外に発信する機会として位置づけ、魅力ある岡山市と岡山市民を表現できる場とし、事業の企画・運営方針を以下のとおりとしました。

子どもからお年寄りまで岡山市民の一人ひとりが、生き生きと自分を輝かせながら、いつでも、どこでも、何でも、学びあい、次世代へつなぐ「人づくり」や「まちづくり」にかかわる取り組みを伝え、広げる。

- ①次代を担う子どもたちの育ちをテーマにした取り組みの重視
- ②あらゆる世代や団体が連携・協力した「地域の協働」の重視
- ③環境、人権など現代的課題にかかわる「まなび」の実践
- ④市民参加、参加体験型事業の重視
- ⑤地域の教育力向上につながる、地域の文化力を高める実践
- ⑥自ら生活するまち「岡山市」を誇ることができる地域づくり

3 企画運営・事業展開

(1) 企画運営

事業の実施にあたっては、開催の趣旨及び目的に基づいた主催事業の実施を検討するとともに、実行委員会設立から11月の開催までに5回の実行委員会を開催し、準備を整えました。実行委員会を構成する団体、生涯学習の拠点である公民館、図書館、そして、各種団体の協力により事業を展開しました。

(2) 実施事業

○主催事業（3事業）

- ①フェスティバル開幕PR展
日時：10月3日（水）～5日（金） 9：00～17：00
会場：岡山市役所1階市民ホール
- ②生涯学習見本市の出展
日時：11月2日（金）～6日（火） 10：00～17：00
会場：桃太郎アリーナ
- ③生涯学習おもちゃ箱 in 岡山ドーム
（メインイベント）
日時：11月3日（土）・4日（日） 10：00～15：00
会場：岡山操車場跡地公園（仮称）・岡山ドーム
内容：「子ども・子育て」「男女共同参画」「高齢者」「団塊世代」「スポーツ」「健康」「人権」「障害者」「安全・安心」「ESD」「自然環境」「情報化」「文化・芸術」「地域再発見」の14のテーマブースと発表ステージ、情報展示コーナーを設置。



子どもから高齢者まで各世代を通じ、生涯学習の情報提供、展示、体験を通して、「まなび」にふれることの出来るイベント。

○共催事業（33事業）

大会期間中に各種団体が主体的に事業を実施

○協賛事業（27事業）

大会期間前後約3か月間に各種団体が事業を実施

(3) ボランティアの参加・協力

メインイベント「生涯学習おもちゃ箱in岡山ドーム」では、600人を超える市民ボランティアの方に各テーマブースを企画・運営していただきました。また、延べ120名の中学生のみなさんに、当日運営ボランティアとして参加していただきました。

4 広報啓発

(1) 屋外広告物

支所（16ヶ所）、公民館（37ヶ所）、図書館（10ヶ所）、その他社会教育施設・文化施設、事業実施施設等に「まなびピア岡山2007」ののぼり、「マナビイ人形」を設置しました。

(2) 印刷物

①印刷部数

ア 「まなびピア岡山2007 in おかやまシティ」

リーフレット80,000部 ポスター500枚

イ 「生涯学習おもちゃ箱in岡山ドーム」

リーフレット80,000部 プログラム5,000枚

テーマ別チラシ（子ども・子育て35,000枚・団塊世代1,000枚）

②配布先

小・中学校、幼稚園・保育園、公民館・図書館・関係機関、団体等

(3) 広報紙等への情報掲載

①岡山市広報紙「市民のひろばおかやま」5・9・10月号にフェスティバル開催案内を掲載して、全世帯に配布しました。

②各種情報誌等に協力いただき、開催案内を掲載しました。

③ケーブルテレビ、ラジオ等に出演し、開催情報をPRしました。

(4) その他

①プレイベント（平成18年11月19日開催）開催

②開幕PR展の開催

③協賛事業等開催時における広報活動

④市政記者クラブに開催案内等を送付

5 成果と課題

(1) 成果

○共催・協賛事業

P T A 連絡協議会による「中学生しゃべり場」「教育フォーラム」等、幅広い団体の主体的な企画参加を得ることが出来ました。また、「吉備公民館丸ごと博物館」「かながわS A K A G U R A 作品展・体験教室」等、地域の特性を發揮した取組となりました。

○メインイベント

「団塊世代」「情報化」等、公民館をはじめ様々な市民の学習活動の広がりや深まりが發揮された企画となり、また、「E S D」「子ども・子育て」等、これまでの豊かな市民活動、学習活動の集結した企画となりました。

フェスティバル期間中は、市内外から多くの来場者があり、特にメインイベントの「生涯学習おもちゃ箱in岡山ドーム」では、2日間で約34,500人の来場者がありました。来場者から「おばあちゃんが子どもになった気分になり、とても楽しい1日でした。」「子ども、若い人、高齢者すべての人にむいた催し物で、健康、学習、遊びがあり、大変楽しい1日を過ごせました。」等の感想をいただきました。参加者にとって、活動の成果にふれたり、見たり、体験したりしたことで、学習のきっかけづくりにつながりました。また、各事業の出演者・出展者も日頃の活動の成果を發表することが出来、まなびの楽しさを再認識することが出来ました。さらには、生涯学習を実践している者同士の、出会いと交流の場となるなど、当初の生涯学習に関する興味、関心、意欲を高めること、市民の一人ひとりが、生き生きと自分を輝かせながら学び合おうといった目的を達成することができました。

(2) 課題

メインイベントと共催・協賛事業の競合により参加者に偏りが見られました。それぞれの事業との結びつきを考慮し、相乗効果を引き出すことが出来ればと感じました。また、県事業についても同様であり、県庁所在地は県の事業と競合し、実際開催するまで不安がありました。また、県主催事業と市主催事業とが混同されることが多く、独自のPR活動をもっと行う必要を感じました。

今回のフェスティバルを通して培うことの出来た生涯

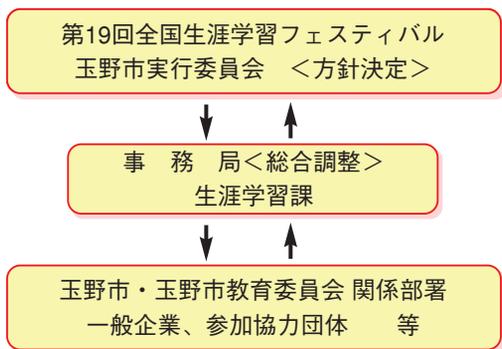


学習の輪と意識・意欲を、今後岡山市の特色を生かしながら、日常的・継続的な学習活動・実践活動を拓げていくことが課題であると考えています。

玉野市

1 推進体制

平成19年2月19日に市長を会長とする第19回全国生涯学習フェスティバル玉野市実行委員会（委員13名）が発足し、事務局を玉野市生涯学習課内に設置し、開催準備を進めました。



2 基本方針

本市では、「まなびピア岡山2007」玉野市主催事業を、多くの人々の生涯学習に関する興味、関心、意欲を高めることを目的として、さらに、玉野市内の社会教育関係団体をはじめ生涯学習に関わる個人・地域・団体・企業等にとって、それぞれの役割や活動を発見・獲得する機会となり、様々な社会教育活動の活性化を図ることをねらいとして開催しました。

また、本市の豊かな自然環境のもと市民が生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に学ぶことができる機会を提供するための、魅力ある玉野市を表現できる場としたいと考えました。これまで本市が取り組んできた生涯学習の成果を県内外に情報発信していくため、本市の特色を生かした事業を以下の方針のもと展開しました。

<事業の企画・運営方針>

- ①自然資産にふれるフェスティバル
- ②歴史や芸術文化、スポーツにふれるフェスティバル
- ③玉野のよさを再発見するフェスティバル

3 企画運営・事業展開

(1) 企画運営

事業の実施に当たっては、開催の趣旨及び目的に基づき主催事業の実施を検討するとともに、フェスティバル開催期間と同時期に、既存の事業を実施する予定の関係機関・団体等と調整し、これらの事業を参加事業と位置付け、市内の企業や市民団体とも連携した事業展開を図りました。

(2) 実施事業

①主催・参加事業（19事業） 7,468人参加



②記念割引事業（3事業） 6,410人参加

③協賛事業（41事業）

④県主催参加事業（4事業） 640人参加

⑤生涯学習見本市玉野市ブース 約1,000人参加



⑥県記念事業（2事業） 995人参加

(3) ボランティアの参加・協力

ボランティア活動の参加も生涯学習の一つという考えのもと、オープニングセレモニーに関する会場整理と運営補助係、記録（ビデオ、写真）係等、係員を広く募集したところ35の方がボランティアとして登録してくださいました。

また、生涯学習見本市玉野市ブースにおいて、本市で押し花講座を開催されている先生と講座生の方にご協力

をいただき、参加者の体験を手助けしていただきました。

フェスティバルに向け、研修会を2回開催し、救急法を学習したり、ボランティア模擬練習を行ったりしました。



第2回ボランティア研修会



実際のスタンプラリーの様子

4 広報・啓発

(1) 屋外広告物

- ①市役所本庁舎に「まなびピア岡山2007 in たまの」の懸垂幕を設置
- ②「まなびピア岡山2007」ののぼり旗とポスターを、市内保・幼・小・中・高の各学校、各公民館等社会教育施設、宇野駅やフェリー乗り場、道の駅等に設置、掲示

(2) 印刷物

- ①市広報紙にイベントの紹介や大会イメージソングCD及び「吉備キビ桃太郎体操」DVDの貸し出し案内、協賛事業紹介など継続的に掲載し、全世帯に配布
- ②本市独自のパンフレット（A3版2色刷2つ折り）を3万部作成し、市広報紙に折り込み、全世帯に配布するとともに、関係する公共施設に設置
- ③県が発行するガイドブック・リーフレット等を各公共施設に配置
- ④月刊「マナビィ」に本市主催事業を紹介
- ⑤教育時報表紙に写真掲載（主催事業の練習風景）

(3) その他

- ①本市ホームページにてイベント情報等を配信
- ②卓上のぼり旗・マスコット人形等を各公共施設窓口に配置
- ③県内テレビ放送局にて「としょかんまつり」の紹介
- ④新聞社による本市主催・参加・協賛事業等の取材・記事掲載
- ⑤市役所ロビーにコーナー設置



5 成果と課題

(1) 成果

天候に恵まれ、本市の事業は予定通り開催することができました。芸術・文化・スポーツと多方面にわたりイベントを展開し、生涯学習の幅の広さと生涯学習に対する関心の高まりを実感することができました。本市が県の南端に位置するにもかかわらず、市内外また県外からも多くの来場者があり、全体で約1万3千人を数えることができました。

また「まなびピア岡山2007 in たまの」という冠をつけることで昨年度に比べ既存の事業の参加者数が増加しました。多くの方に本市における様々な生涯学習を知っていただくよい機会になりました。

(2) 課題

今回のフェスティバルを通して各種団体と行政の連携により広がった生涯学習の輪をどう継続・発展していくかが課題です。

また、本フェスティバルにおいてもボランティアの方の活躍のおかげで、各種イベントが成功へと導かれ、岡山国体で培ったボランティア精神が見事に引き継がれました。今後は、国民文化祭に向けてさらなるボランティアの育成やネットワークづくりが新たな課題であると考えています。

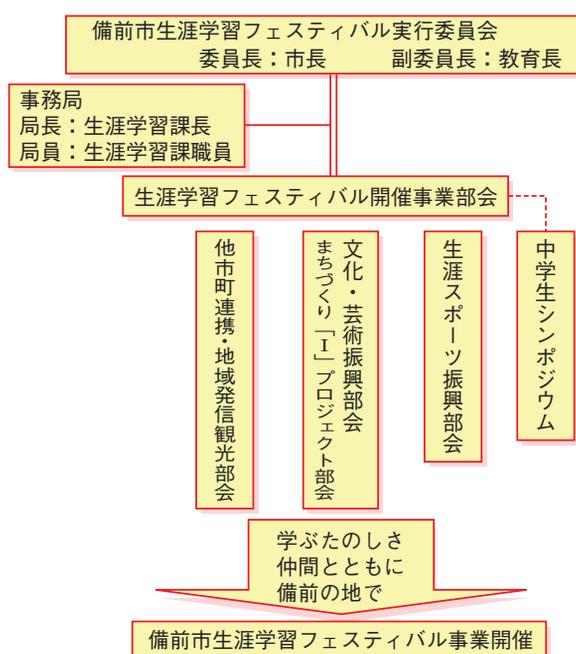
今回の成果を生かし、「いつでも・どこでも・だれでも」気軽に生涯学習に取り組むことができるよう、環境整備及びサービスの向上に努めていく必要があります。

備前市

1 推進体制（組織図）

平成18年8月30日に備前市長を委員長とする第19回全国生涯学習フェスティバルにおける備前市生涯学習フェスティバル実行委員会（委員15名、以下「実行委員会」とする）を設置しました。また、同日には備前市生涯学習フェスティバル開催事業の企画・運営を円滑に行うための組織として、実行委員による部会を実行委員会の下に設置しました。

【組織図】



2 基本方針

全国生涯学習フェスティバルが開催されるにあたり、備前市では国宝「閑谷学校」や伝統工芸品の「備前焼」など恵まれた学習資源を十分に活用し、官民協働による「人づくり」「地域社会づくり」に寄与できる備前市らしさを体感してもらえらるフェスティバルとしました。本フェスティバルの開催にあたっては、

- (1) だれもが参加・交流・体験でき、学びを身近に感じることができるフェスティバル
- (2) 合併後の新しいまちの「人づくり」「地域社会づくり」に寄与できるフェスティバル
- (3) 岡山国体で培った「おもてなしの心」を引き継ぎ、官民協働のパートナーシップを発揮できるフェスティバル
- (4) 開催の成果が継承されるフェスティバル

- (5) 備前市の学びスタイルを全国に発信するフェスティバル
- の5項目を方針として取り組みました。

3 企画運営・事業展開

開催にあたっては、開催の趣旨及び目的に基づいた主催事業を検討するとともに、全国生涯学習フェスティバル大会期間中に開催する予定の既存事業主管課及び関係機関・団体と調整し実行委員会主催事業及び協賛事業として位置づけを協議しました。

【実施事業】

- (1) 実行委員会主催事業（10事業）
- (2) 協賛事業（53事業）



中学生シンポジウム



合唱連盟によるテーマソングの合唱



オリンピック入賞ランナーと一緒にジョギング教室



人間国宝の記念講演会

4 広報・啓発

(1) 備前市生涯学習フェスティバル事業広報物の

印刷・配布

- ① 印刷物及び部数
・ポスター 100枚
・チラシ 17,000枚
・パンフレット 1,500枚
- ② 配布先 市施設、関係機関・団体、市内JR駅

(2) 備前市生涯学習フェスティバル事業告知用看板の設置

- ① 告知用横看板 備前市役所に設置
- ② 懸垂幕 備前市総合運動公園テニスセンターコート
備前焼伝統産業会館
- ③ のぼり旗 地域公民館・地区公民館・市民センター
備前市総合運動公園多目的競技場
備前陶芸美術館

(3) 市広報紙・新聞等による情報提供及び啓発

- ・「広報びぜん」に啓發文及び特集記事を掲載
- ・ボランティア活動を主に市記者クラブに紹介し、啓発記事記載によるPRの促進

(4) その他

- ① 市内での広報活動
備前焼まつり、市民ふれあいまつり、市健康マラソン、おぎゃっと21備前等
- ② スタッフジャンパーの作成
実行委員会委員、ボランティア、マラソンスタッフ等
- ③ 県作成広報・啓発用品を活用したPR活動や県作成のチラシ・ポスター、のぼり旗による啓発活動
- ④ フェスタボランティア研修会、バルーンアート講習会、接遇研修会、救命講習会等

5 事業の実施結果

- (1) フェスティバルの目的である、本市における生涯学習社会の構築及び学習意欲の向上、学習活動への参加のきっかけなど所期の目的を概ね達成することができました。これを契機に今後更なる生涯学習事業を推進していきたいと考えています。
- (2) 主催事業への参加人数は3,100人を数えました。
- (3) 市民ボランティアとして講座生90名と社会教育団体60名に協力していただきました。

6 成果と課題

(1) 成果

- ① 官民協働による備前市らしさを体感してもらえる事業を実施することができました。
- ② 本市における生涯学習社会の構築の契機とすることができました。
- ③ 市民、各種団体、企業、行政の連携関係は今後実施する社会教育及び生涯学習の推進においても大きな宝となり、これから本県・本市において開催される国民文化祭でも大きな活力になるものと考えています。
- ④ 合併後初の総合文化祭開催や市内幼稚園児約300人がオープニング行事に参加し華を添えてもらったふれあいマラソン・ウォーキング大会など明るく活力に溢れた行事開催ができました。
- ⑤ 障害者の方々が多数マラソンに参加し、「ふれあいマラソン」にふさわしい大会となり、障害者理解にも繋がる大会となりました。

(2) 課題

- ① 今回、初めて県がメインとなる事業を1箇所で実施し、全市町村が独自に実施した方式では、全市町村において参加者の争奪となりました。岡山県初の全市町村開催方式や従来の県内数カ所の開催方式等の実施方法について再度検討する必要があると考えられます。国民文化祭方式のようにメインとなる生涯学習事業を全市町村に割り振ることが交流人口の拡大及び県内の生涯学習社会ネットワークづくりに繋がっていくのではないかと考えられます。
- ② 生涯学習フェスティバルは、今回で19回を数える歴史ある大会ですが県民及び市民に浸透しておらず「生涯学習」という定義も理解かされていない状況にあります。
- ③ 団塊の世代を対象にした生涯学習推進がこれからの大きな課題と考えられます。